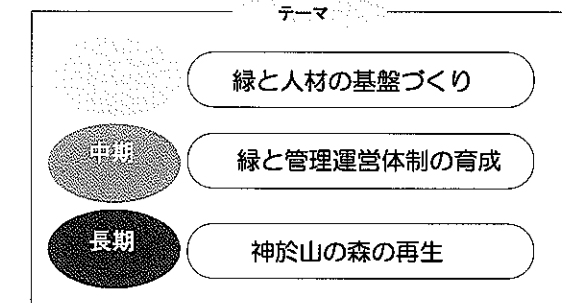


6-2 ボランティアとの連携

■ 今後の展開

- 短期目標** : 緑と人材の基盤づくりをテーマとして、荒廃森林の整備を行い、維持管理を託す市民の管理技術の向上を図る。  
 基本的には、ボランティアが管理・運営を行っていくことを目標に、その準備期間として位置づける。
- 中期目標** : 緑の育成をテーマとして事業後の維持管理体制をボランティア中心に行う。大規模な整備を行った後の維持管理が大きな課題となるため、里山管理の参加者の拡充を図り、継続的な管理体制の基盤づくりに努める。また、里山の再生期間として位置づけて、落葉広葉樹の育成を図る。
- 長期目標** : 神於山の森の再生をテーマとして、基本的には荒廃森林から健全な落葉広葉樹林への再生が図られた後の里山管理への転換を図る。  
 また、短期・中期で培った管理・運営方法、あるいは林間体験イベントなどをプログラム化して、他の団体とのさらなる連携の強化を図る。



神於山では、既に里山整備を目的とした活動を行っている神於山保全くらぶを中心に市民参加型保全活動を継続・推進している。しかし、整備対象地は、広大であり神於山保全くらぶの現在の活動人数（平成17年4月登録者65人）で整備後の管理・運営を行うには限界がある。そのため、統括的な維持・管理・運営をするために神於山保全活用推進協議会に参画する各ボランティア団体や地域住民の協力が望まれる。

神於山においては、地域との連携強化や人材の確保を図っていくため同協議会を主体とした連携を深め、これら課題を解消するための取り組みを積極的に行っていく。

ボランティアとの連携として、短期的には、協議会が主となり、地域住民との連携を図りながら参加者の拡充を図り、また「環境教育」「ワークショップの開催」を実践して、子供から大人まで、できるだけ多くの人に関わる環境を整えるよう努める。

詳細な事業内容を検討するため、協議会の構成員であるボランティアや地域住民の参画を求め、それぞれが取組む内容を本事業計画に盛り込み連携して実施する。

環境教育として、岸和田市や大阪府が「環境学習イベント」としての自然観察会やモニタリング調査、子供たちによる植樹等のイベントを開催する。

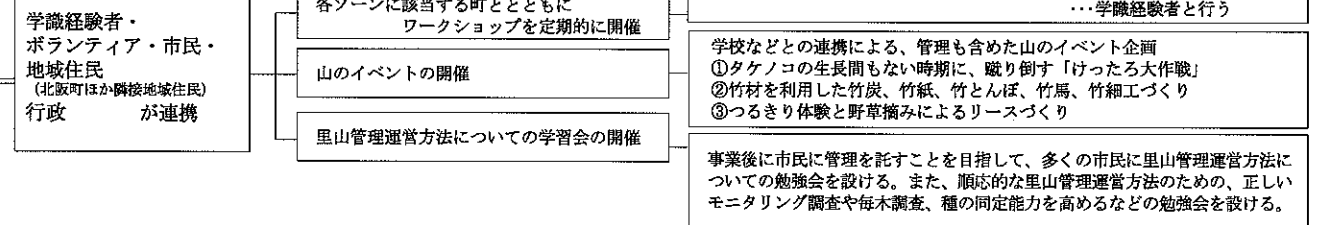
また、中期的には、今後の管理・運営方法が大きなテーマになることを認識しつつ、現在活動しているボランティアや地域住民が主体となる管理体制を確立するとともに、長期的に無理なく維持管理できるシステムの構築に努める。

緑と人材の基盤づくり

ステップ-1

神於山の将来の里山管理を考える上で、北阪町ほか隣接地域の住民との連携が不可欠である。神於山保全活用推進協議会が中心となりボランティアや地域住民と共に協議を重ね、地域との連携強化を図る。広大な面積の森林の管理運営は、地域との連携なしでは考えられないため、将来の目標林についての協議を重ねることや様々なイベント開催を行った結果で生まれる里山への関心・郷土心の高まりを、地域主体のボトムアップとしての管理運営に結びつける。

◆ 緑と人材育成のための地域の連携の強化

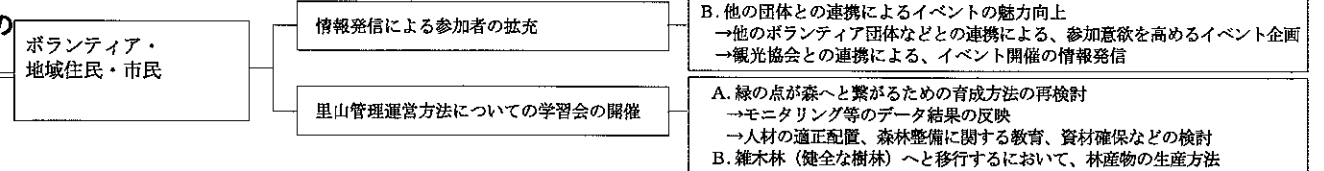


緑と管理運営体制の育成

ステップ-2

ボランティア団体主体による里山管理・運営を行っていく。各ボランティア団体が地区分けをし、それぞれの区域での管理運営を行い、神於山の森の再生に向けて指導していくコーディネーターとしての役割を担う。また、地域との連携を強化し管理・運営に対する基盤づくりを整え、さらに外へむけた情報発信（ホームページの開設や機関誌の発行）を行う。他の団体（観光協会やその他分野（クラブ作成など）のボランティアグループ）との連携を強化して、市民参加の推進を図る。

◆ ボランティア・地域住民主体の管理・運営

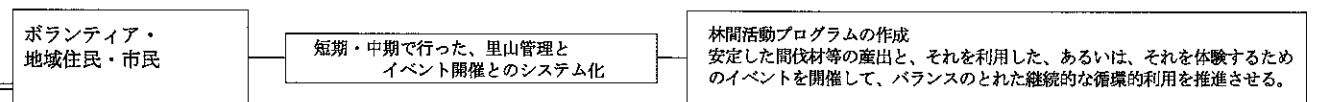


神於山の森の再生

ステップ-3

10年後は、後継樹となる樹木の実生苗や植栽樹が生長し、神於山の森が再生される。森の再生とともに管理方法が雑木林の管理に転換され、間伐材（雑木、スギ・ヒノキ、タケ）の利活用の循環が安定する。そのため、ボランティア、市民が、短期・中期で培った企画運営をもとに、林間活動プログラムを確立する。林間活動プログラムは、安定した間伐材等の産出と、それを利用した、あるいは、それを体験するためのイベントを開催して、バランスのとれた循環的利用と保全管理活動を推進させることとして位置づける。

◆ 里山(雑木林)管理への転換と管理運営システムの構築



# 神於山保全くらぶ活動地詳細位置図

S=1:5000

